

G・W・バークレー



西南学院大学 学長

K・J・シヤフナー前学長の任期満了に伴い、2018年12月15日付で、G・W・バークレー神学部教授が学長に就任した。任期は2022年12月14日までの4年間で、4年ぶりの再任である。

G・W・バークレー新学長は、1955年7月生まれの63歳。米国テネシー州出身。1977年米国サムフォード大学卒業。米国サザン・バプテスト神学校卒業後、英国オックスフォード大学留学を経て、米国サ

ザン・バプテスト神学校大学院博士課程を修了。この間、教会副牧師、神学校助手、同アカデミック・カウンセラーを歴任した。

1984年5月に米国南部バプテスト連盟外国伝道局宣教師として来日(2002年宣教師辞任)後は、1987年4月から西南学院大学神学部講師、1985年に同助教授、1995年に同教授となり、学長、

神学部長、宗教部長といった大学の役職をはじめ、学校法人西南学院の理事長、院長、宗教局長、および保育所園長の要職を務め、現在に至る。

2019年に創立70周年を迎える大学のさらなる発展のため、本学の根幹である建学の精神、理念・目的を踏まえた教育・研究の推進、および地域貢献に力を入れる。また、グローバル化が進行している社会の変動の中で、国内外で活躍できる卒業生を輩出することを目指す。

UNIVERSITY CURRENT REVIEW



大学時報

奇数月20日(年6回)刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第324号(2009年1月発行)から

詳細は
<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



第383号 (2018年11月発行)

【特集】

大学は自然災害とどう向き合うか



【座談会】

地方自治体と大学の就職に関する協定締結による地域活性化への期待

【インタビュー】

石村 一枝氏(株式会社石村萬盛堂専務)

第384号 (2019年1月発行)

【特集】

入学前教育の現状と課題



【座談会】

教職協働の現状と課題

【インタビュー】

新田 晃千氏(カバディ日本代表選手)

長坂悦敬 甲南大学長、経営学部教授。'83大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了。'92博士（工学）。'83コマツ生産技術研究所、'94大阪産業大学、'01甲南大学入職。'14から現職。

阿久戸光晴 福岡女学院大学学長。一橋大学社会学部・法学部卒。東京神学大学修了。聖学院大学学長・理事長。院長歴任。荒川区特別功労賞。専門はキリスト教倫理学・憲法学。

吉原健二 学校法人関西大学梅田事務局長。'79関西大学社会学部卒。'12学校法人関西大学理事、学長秘書課長、キャリアセンター局長を経て現職。

富田 勝 慶大先端生命科学研究所所長。カーネギーメロン大学コンピュータ科学部Ph.D取得。同大准教授、慶大環境情報学部教授、学部長を歴任。米国立科学財団大統領奨励賞など受賞。

池上豆彦 立教大学経済学部教授。'91博士（経済学・東北大学）。新潟大学を経て、'99から現職。'17から陸前高田グローバルキャンパス運営機構副機構長。'18から統括副総長。

岩崎克也 '91（株）日建設計・設計部入社。'91東海大学大学院博士前期課程建築学修了。現在、設計部長。多くの私大教育施設を担当。主編著『未来を拓くキャンパスのデザイン』。

音 好宏 上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

富増和彦 愛知大学常務理事、副学長（経営担当）。'92大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程単位取得退学。博士（経営学）。愛知大学経営学部長を経て、'15から現職。

田中一郎 阪南大学学長室社会連携課担当課長。'87関西学院大学社会学部卒。'96年阪南大学入職、'97国際交流センター（現学生部国際交流課）、'1450周年記念事業準備室、'16あべのハルカスキャンパス事務室、'18から現職。

大江 篤 園田学園女子大学人間教育学部教授、企画運営部長。関西学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。博士（歴史学）。主著『日本古代の神と霊』など。

山田耕太 敬和学園大学学長、'86タラム大学神学系大学院博士課程修了。Ph.D。'15から現職。主著『新約聖書と修辞学』『フィロンと新約聖書の修辞学』『Q文書』など。

河合儀昌 学校法人金沢工業大学常任理事、産学連携局長。'86島根大学農学部卒。日本IBM（株）、日本オラクル（株）を経て、'05金沢工業大学入職、'16から現職。

及川清昭 立命館大学理工学部教授、キャンパス計画室長。東京大学大学院修了。東京大学生産技術研究所助手、東京大学大学院新領域創成科学研究科助教を経て、'03から現職。

池田 伸 立命館大学経営学部教授、学長補佐、大阪いばらきキャンパス代表、OIC地域連携室長。京都大学大学院修了。立命館大学経営学部助教などを経て、'01から現職。

山崎一穎 学校法人跡見学園理事長、跡見学園女子大学名誉教授。早稲田大学院博士課程日本文学専攻修了。博士(文学)。主著は『森鷗外論攷』『正統』『森鷗外・歴史文学研究』など。

田近裕子 津田塾大学総合政策学部総合政策学専攻教授。米国ミネソタ大学院応用言語学博士課程修了(Ph.D)。津田塾大学芸学部英文学専攻教授を経て、'17から現職。

守口剛 早稲田大学商学学術院教授。'96東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。博士(工学)。立教大学を経て、'05から現職。'18から教務部社会人教育事業室長を兼務。

小川智由 明治大学商学部教授。明治大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得退学。文京学院大学経営学部教授などを経て、現職。専門はロジスティクス、マーケティング戦略。

小林大祐 東洋学園大学人間科学部専任講師。'15中央大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了。博士(政治学)。'17から現職。主著『ドイツ都市交通行政の構造』など。

馬場靖雄 大東文化大学社会学部教授。'88京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。長崎大学、大東文化大学経済学部を経て、'18から現職。主著『ルーマンの社会理論』。

井奥成彦 慶應義塾大学文学部教授、慶應義塾福澤研究センター所長。'86明治大学大学院博士後期課程単位取得退学。博士(史学)。主著『19世紀日本の商品生産と流通』など。

舛井道晴 石巻専修大学経営学部准教授。'11東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程単位取得退学。修士(工学)。'13から現職。

松下賢一 甲南大学地域連携センター事務室課長。立命館大学産業社会学部卒。西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)を経て、'04に学校法人甲南学園に転職、'16から現職。

石原芳典 龍谷大学龍谷エクステンションセンター事務部課長。'95龍谷大学文学部卒。高次大連携推進室課長、理工学部教務課長を経て、'16から現職。

大迫友紀 東京都出身、武蔵野美術大学卒。大学で陶芸を専攻した後、富山ガラス造形研究所および金沢卯辰山工芸工房でガラス工芸を学ぶ。第46回日本クラフト展海外研修賞受賞。柔らかな表情を見せる器にはファンも多く、雑誌でたびたび取り上げられるほどの人気である。国内外で個展を開催。

外川智恵 大正大学表現学部准教授。大正大学文学部卒。'92山梨放送入社。'01からフリーとして活動。TOKYO FM「SYMPHONIA」(月曜〜木曜)のパーソナリティも務める。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き

2019年
1月・2月

- 1月8日(火) 第9回理事会、平成31年新年文歓会に出席
- 1月22日(火) 第9回常務理事会に出席
- 1月31日(木) 日本経済団体連合会の「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」に出席
- 2月4日(月) 文教関係国会議員に高等教育の無償化および高大接続の課題について説明
- 2月12日(火) 第10回常務理事会、第10回理事会に出席
- 2月14日(木) 文教関係国会議員に高等教育の無償化および高大接続の課題について説明
- 2月15日(金) 財務省主計局に高等教育の無償化および高大接続の課題について説明
- 2月20日(水) 柴山文部科学大臣および文教関係国会議員に高等教育の無償化および高大接続の課題について説明
- 全私学連合の「私学振興協議会」の懇談会に出席。私学振興協議会メンバーである国会議員に平成31年度私学助成および税制改正のお礼を述べる。

● 2月24日(日) 天皇在位30年式典に出席

開催報告

● 1月8日(火)

「新年文歓会」開催

私大連にご支援・ご協力いただいた方々をお招きして開催する新年文歓会が開催され、鎌田薫会長の年頭あいさつ、清家篤顧問の乾杯の後、447名のご出席者が新年の歡びを交わした。

● 1月25日(金)

「第2回学長会議」開催

「社大接続——社会が求める人材像と大学教育のあり方——」をテーマに開催。62の加盟大学から68名の参加があった。

● 1月29日(火)

「国の補助金等に関する説明会(第2回)」開催

「平成31年度私立大学関係(私学助成)政府予算案等」、「国公立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進等に関する政府予算案」、「科学技術・学術に関する政府予算案」、「新たな高等教育段階の負担軽減方策」について、文部科学省担当者から報告、説明があった。また、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の担当者より「地方創生に関わる国の制度・予算の動向」についての説明もあり、最

新の情報共有した。当日は、1022の加盟大学から368名の参加があった。説明会後、設置された個別質問ブースでは、各大学からの質問に文部科学省担当者が対応し、より詳細な説明を受けた。

お詫びと訂正

384号につきまして、以下の誤りがございました。

- 115ページ下段 (誤)「旧高等商学科」↓(正)「旧高等商業科」
 - 116ページ上段写真見出し (誤)「新生大学当時の校舎」↓(正)「新制大学当時の校舎」
 - 116ページ下段 (誤)「教育・推進機構大学」↓(正)「教育・研究推進機構」
 - 118ページ上段 (誤)「文化系学部」↓(正)「文科系学部」
 - 119ページ上段 (誤)「A6版」↓(正)「A6判」
 - (誤)「低層通音」↓(正)「通奏低音」
 - 119ページ下段写真見出し (誤)「福岡市の有形文化財」↓(正)「福岡県の有形文化財」
- 以上、お詫びして訂正いたします。

座談会 「大学における親子関係と保護者を巻き込んだ教育と学生指導の展開」

特集 「LGBT に関する理解醸成と大学の取り組み」

小特集 「大学の学事暦について考える～クォーター制導入事例を中心に～」

表紙・大学点描 実践女子大学 だいがくのたから 大東文化大学

クローズアップ・インタビュー:「黒川 光博さん(株式会社虎屋代表取締役社長)」

編集後記

◆2013年に文部科学省が策定した「国立大学等キャンパス計画指針」では、「教育研究活動を支える」「全人的な人格形成を促す」「社会に開く」「個性・特色を表す」「交流を育む」「時代を紡ぐ」をキャンパスの基本的役割・機能とし、「キャンパスの質的向上」と「開かれたキャンパスの実現」を目指す方向性とした。そして、キャンパスを創造的に再生する計画では「教育研究の活性化」「地域・社会との共生」「サステイナブル・キャンパスの実践」「安心・安全なキャンパスの確保」を留意事項としている。特集では、各私大の教育研究展開と関連のある都市機能との連携・融合、地域社会創生の拠点、まち中のキャンパス化、実証実験キャンパス、地域と一体となったキャンパスづくりなど、進化するキャンパスの事例をご紹介させていただいた。

今後はさらにリアルとバーチャル、国内と国外など、キャンパス自体の変容も予想される。年度末のご多忙な折、未来のキャンパスを考える機会をくださった執筆者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

(広報・情報部門会議「大学時報」委員・立命館大学総合企画部広報課長 五坪 智彰)

◆海外の大学の職員と話す、働き始めてからも修士や博士の学位を取得したり、仕事を通じて得たネットワークを活用して、何らかの形で学び続けていく人が多い。より良い仕事をするため、良いポストを得るためということもあるが、仕事を通じて得た知見を発展させ、自分のものにするために自分ができることを探そうとする活力を感じる。

日本でも社会人教育の促進、リカレント教育が話題になってきたが、多くの卒業生、特に企業に勤める人にとつて、大学は依然として懐かしく振り返るだけの場所であり、いま仕事をする自分とはかけ離れた場所のように捉えられがちで、産学連携を考える場合も、つい学生時の感覚だけで話してしまうことが多いように感じる。

しかし、いまの自分の関心や将来と関わる場所であると思わせることができれば、大学への見方も変わっていくのではないかと。今回の企画「社会人・企業向け講座のいま」が、新たな目で大学を見つめ

るきっかけになることを期待したい。(広報・情報部門会議「大学時報」委員・上智大学総務局 S G U 事業推進室長 中山 映)

◆「好きなことはあえて仕事にはせず、趣味としてプライベートで楽しむほうが良い」という話を聞くことがある。今号のクローズアップ・インタビューでは、ガラス作家の大友友紀さんにお話を伺った。予備校時代に工芸を志願し、大学卒業後、ガラスで作品をつくり始めてから現在に至るまで多くの作品を制作してきたこと、その原動力を聞くと「見たことのないものを見てみたい」という気持ち」であり、いまでは作品制作が日常生活の一部となっているという。

しかし、多くの芸術家はそれぞれの分野で新しい作品をつくり続けることが求められ、場合によっては生みの苦しみを感じながら制作するという。「好きなことをする」ことを自分に許しながら、「生活するように、制作する」という大迫さんの姿勢は、好きなことを仕事にする、そのことを実現するヒントを示していたように感じた。(日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文)

